

平成28年4月12日

世界の子ども大学

子ども大学かわごえ
酒井一郎

現在わが国では埼玉県内で子ども大学かわごえをモデルにした子ども大学が50校以上活動しています。これだけ多くの子ども大学が埼玉県内に誕生したのは、子ども大学かわごえの活動に関心をいただいた現在の埼玉県知事上田清志氏が教育委員会を督励して県内にできるだけ多くの子ども大学を設立するよう働きかけたことに起因しています。

埼玉県外では、ぐんま、かまくら、よこはま、茨城、水戸、日進（愛知）など十数校の子ども大学が活動しています。

海外へ目を向けると、現在欧州で100校以上の子ども大学が活動しています。特に活発に活動しているのは、ドイツとオーストリアと英国です。ドイツとオーストリアで50校以上の子ども大学がお互いに競い合っていますが、主催は各都市の大学で、特にウーン大学の広範囲な活動が目立ちます。ドイツとオーストリアの授業の特徴は500人から1000人に上る子ども大学生を大講堂へ集めて講義をする大規模教育です。保護者は教室へは入らず、別の教室で大スクリーンでビデオで授業の様子をフォローアップする方式を取っています。もちろんウーン子ども大学などでは大講堂における一斉授業を補完するために小グループの体験学習を積極的に取り入れています。いずれにしても子どもと親が同じ教室で先生の講義を聞くという様子は見られません。

子ども大学が活発に活動している英国では、大陸系の子ども大学と違って、大学の役割は控えめで、その代わりに市町村や教会等の公的団体や市民団体が積極的に子ども大学活動を行っています。大学以外の団体の活動は体験学習などが中心になっています。

欧州以外では、不思議なことに米国には本格的な子ども大学 (Children's University) は1校も見当たりません。欧州以外ではオーストラリアのアデレイドでアデレイド大学が英国式の子ども大学 (Children's University) を積極的に展開しています。インドのガンディナガルにもやはり英国式の子ども大学が1校出来ています。

簡単ですが、以上が世界の子ども大学の様子です。

以上